

新年、あけましておめでとうございます。新年の抱負としては、「校友サロン」開設をはじめとする校友会活動の活性化を、具体的に実行する一年になればと考えています。

校友会本部の役割とは。

そもそも校友会は異業種交流の場であるとともに、専大一家の「絆」をつくる場であると、私は思っています。校友会の活動の主体は、あくまでも支部です。私は毎年、支部を訪問しており、支部の声を聞いています。ただ、本部に何かしてくれ

職域支部は67、同窓会支部2、海外支部4、同期会支部は41（～平成6年卒まで）で、昭和の世代だけです。平成世代の同期支部については本学の教職員たちに、まず発起人になって人集めをやってほしいと考えています。

全体で319の支部がありますが、実際に活動しているのは、約半分の150前後、休眠支部のほとんどは地域支部で、活性化といっても簡単ではありません。そこで、二つご提案があります。

一つは、近隣の支部同士、合同で支部総会やイベントを開催する。神奈川県の相模原支部と町田

支部は観桜会、納涼大会などを合同でやっています。千葉県では流山支部、

支部と本部、ともに活性化へ、具体化へ。

るかを期待するのではなく、まず支部の皆さんが活動してください。本部は、そうした活動を支援する、お手伝いするのが役割であると思っています。が、現在の支援状況には課題もあります。それは財政基盤が弱いというのも一因であり、この点を改善していくことが本部の課題でもあります。

情報的な支援として私は支部を訪問する際、大学や校友会の近況、たとえば小説『蒼翼の獅子たち』の情報などに加え、復元された「黒門」や映画「学校をつくろう」の話、最近の神田・生田校舎を自分で撮影した写真をアルバムにして持って行くようにしています。これは、非常に喜ばれています。

課題を解決するために。

校友、とりわけ平成世代の若い校友が参加しやすい仕組みをつくることも、大切であると考えています。現在、支部の総数は319です。内訳は地域支部205、その中に連合が22あります。ほかに

柏・沼南支部、我孫子・印西支部、野田鳳会も、合同でやっています。連合という大きな形でなくても近隣両隣の支部が一緒に開催し、幹事役を持ち回りにすれば支部長さんたちの負担も軽くなります。一人で頑張らないで、役割分担すべきです。そういう意味で、連合や合同でやるべきですね。

もう一つは、支部や運営を任せられることができる人物を発見し、次世代を育てることです。常にそうした努力をして、校友会の伝統や歴史を引き継いでいくことが大切だと思います。（談）

※ 支部の数字は2010年12月1日現在です。



専修大学校友会 副会長

高橋貞雄

たかはし さだお●1962（昭和37）年、商経学部商業学科卒業。新潟県出身。1935年生まれ。2005年、税理士法人エスティマネジメント代表社員就任。日本税理士会連合会理事、東京税理士会常務理事。東京税理士会事務所健康保険組合 副理事長、専修大学商学部客員講師を歴任。現在、専修大学評議員。モットーは「夢を計画に変え、計画に日付を」。

校友会からの情報発信。

専修大学のホームページがリニューアルされ、より見やすくなりました。校友会のホームページも、さらに充実。校友会に関する最新のニュースやイベント告知をはじめ、51号以降の『アドニス』掲載の「われら専修人」など、一部の記事をご覧いただくことができるようになりました。検索エンジン「グーグル」などで、すぐ検索できます。



専修大学

検索

<http://www.senshu-u.ac.jp/>



専修大学校友会

検索

<http://www.senshu-u.ac.jp/falumni/koyu/index.html>